

【2020 年度 決算説明会】 質疑応答概要

※説明会における主な質疑応答をご紹介します。

<日 時> 2021 年 5 月 18 日(火) 17:30 ~ 19:30

<出席者> 明治ホールディングス(株) 代表取締役社長 CEO 川村 和夫

取締役執行役員 COO(医薬品セグメント) 小林 大吉郎

取締役執行役員 COO(食品セグメント) 松田 克也

取締役専務執行役員 CFO 塩崎 浩一郎

取締役専務執行役員 CSO 古田 純

Q1: 2023 中計では、食品セグメントのコア事業の売上高の CAGR(年平均成長率)を 4.1%としていますが、達成に向けてどのように取り組めますか。

A1: 新商品の発売および喫食シーンの多様化に取り組んでいきます。プロバイオについては、新しい健康価値をもった商品の発売を予定しています。加えて、既存商品についてもエビデンスに基づいて、改めて価値訴求していきます。ヨーグルトについては、サラダにかけたり、お味噌汁に入れたりするなど喫食シーンを増やしてもらうためにブルガリアヨーグルトのドリンクタイプをリニューアル発売しました。チョコレートは、カカオ豆から調達し、製造、販売まで一貫して行っている当社の長を生かしていきます。例えば、当社のチャネルや三温度帯のノウハウを活用して新たな市場を創出していきます。既に、研究所、開発、マーケティングを中心に新商品の展開方法の検討を進めています。

Q2: 2023 中計では、食品セグメントの海外事業は増収計画ですが、中国ではどのような取り組みを行いますか。また、中国の 2020 年度の実績、2021 年度と 2023 年度の売上計画を教えてください。

A2: 中国では、本年 4 月より発売したプロバイオについては、7 月より蘇州工場の生産能力が高まる予定です。既に市乳 2 工場、菓子 1 工場、アイスクリーム 1 工場の投資を決定しており、2023 中計期間中に生産能力を高めていきます。また、2020 年 8 月より販売を開始したスポーツプロテイン「ザバス」は、ブランドおよび販路の構築に努めていきます。

なお、中国の売り上げは、2020 年度実績は 162 億円、2021 年度は約 200 億円、2023 年度は約 350 億円を計画しています。

Q3: 中国のプロバイオは生産能力を高めていくとのことですが、どのように販売面を伸ばしていくのですか。

A3: 中国で展開しているプロバイオは、日本の商品と比べて容量を多く、そして粘度を高くするなど、中国の消費者に合った商品に仕立てています。また、中国の販売体制を強化するための人員を増強しています。7 月からは生産能力も高まるため、徐々に販路も拡大していく予定です。

Q4: 2020 年度、医薬品セグメントが計画を上回る増益となった背景を教えてください。また、今後の医薬品セグメントの成長ドライバーを教えてください。

A4: KM バイオロジクスのインフルエンザワクチンの生産効率改善に加えて、棚卸資産の評価方法の見直しが増益に寄与しました。また、医薬品セグメントとしては、棚卸資産の未実現利益が良化しました。

今後の成長ドライバーはヒト用ワクチンや注射用抗菌剤、開発中の新型コロナウイルス感染症の不活化ワクチンなどの感染症領域です。

Q5: 2023 中計における新領域への挑戦として、産官学と連携する研究体制がありますが、ベンチマークとしているプレイヤーがいれば教えてください。また、オープンイノベーションをどのように行っていくのですか。

A5: 先行している大手企業は世界でもあまりないですが、ベンチャー企業の動向に注視しています。

研究員を外部研究機関に派遣し、オープンイノベーションを積極的に行っていきます。アカデミア、国立研究開発法人、スタートアップなど様々な形態でオープンイノベーションを進めていきたいと考えています。

Q6: 2023 中計における戦略の考え方を教えてください。

A6: 大きく二つあると考えています。一つ目は既存領域における競争力の強化です。食品セグメントにおいては、コア事業であるヨーグルト・プロバイオ、チョコレート、ニュートリションの更なるシェア拡大が可能だと考えています。医薬品セグメントにおいても感染症領域での強化を図っていきます。二つ目は新領域の開発です。価値共創センターにて取り組んでいる抗老化や免疫増強の研究は興味深い知見が出てきています。これを食品あるいは医薬品で活用し大きなビジネスにつなげていくつもりです。

Q7: 2023 中計、2026 中計に向けて、各セグメントの事業管理区分を再編成した目的および今後の方向性について教えてください。

A7: ポートフォリオ管理を強化していくため設定しました。例えば、医薬品セグメントについては 9 事業ありますが、当社の規模感の医薬品企業としては事業数が多いと感じています。資源の集中が大切であり、感染症領域などの強みのある事業に注力していきます。

Q8: 2023 中計では ROIC 10%以上、ROE 11%以上を KPI にしていますが、資産効率についてどのように捉えていますか。

A8: ROIC、ROE ともに大幅な改善にはなりません、資産の見直しと効率化を継続的に図っていきます。また、ROIC の導入により事業責任者に対し、収益性と資産効率の改善意識を植え付けることが大事だと考えています。

Q9: 2021 年度の設備投資計画の内容と減価償却費の前提を教えてください。

A9: グループ全体の設備投資約 1,200 億円のうち、食品セグメントで約 1,000 億円、医薬品セグメントで約 200 億円を計画しています。食品セグメントは、恵庭新工場(牛乳)、中国(上海、広州、天津)などへの投資です。医薬品セグメントは、小田原工場、インドやインドネシアの工場のライン増強、また新型コロナウイルス関連設備への投資を計画しています。2021 年度の減価償却費は、前年度比で約 25 億円増加する見込みです。

以上